



### だんじり会社経営 梶内 照弘さん(81)

淡路の祭りを盛りたててくれる「だんじり」(権尻)だが、製造し、修理のできる店は島内でここしかない。金糸、銀糸で刺しゅうしただんじりの飾り窓などの「ぬい細工」が梶内さんの専門。この道一筋に七十年を生きた、四十六年に名人工として県の「技能顕功章」を受賞している。

梶内さんは徳島県池田町の生

まれ。両親に早く死に別れて、小学校も出ぬうちにぬい細工の師に弟子入りして修業。その師匠のツテで津名町に移住してきたのは二十五歳の時。以来、だんじり、みこし、太鼓台、仏壇など主に神仏に關係したぬい細工ものの仕事に生涯をかけてき

た。

「淡路の祭りでだんじりが最も盛んだったのは大正から昭和の初めでしょうか。近年また少くすつ復活してきましたが、そのころに比べればまだまだ及びません。何しろその時代は若者がいっぱいいましたから……」。

「模倣はいろいろあるが、別に教科書はないんです。客が注ぎ、それで忙がしい毎日を送って文し、それで教えられてきたわ

梶内さんの長生き、健康法は

## この道70年の名工



「仕事が薬」と元気に話す梶内さん

「仕事が薬」と答えるほど。それほど働いてきたのに、いままも年齢を感じさせず、仕事に精を出している。その梶内さんのライフワークは宇治平等院を図柄にしたぬい細工という。きらびやかな鳳凰堂に「雲」の心がわけもなく引かれるらしい。この人ならやり遂げそう。

◇ 明治二十九年三月生まれ。梶内だんじり株式会社を経営し、大阪、明石に店を持つ。津名町志気。